

日本と西ドイツの育児観の比較

詫摩 武俊 (東京都立大学心理学教室)

この研究は西ドイツSaarbrücken 大学 H-J, Kornadt教授, Aachen工科大学 G. Trommsdorff 教授, Mannheim大学 T. Herrmann教授らと共同で計画されている一連の研究の一部である。

目的とするところは日本と西ドイツの幼稚園児の母親について子どもの発達期待ならびに育児観にどのような相違点, 類似点が認められるかを今回は質問紙法によって調査することにある。

用いた質問紙は4つの部分よりなる。a) 発達期待(例; ひとりで食事ができること, おとな同士が話合っているときに話しにわりこんでこないことなどがそれぞれ何歳ころできるようになることが望ましいと思うか。40項目), b) 特定の状況下での一定の行為の望ましさの程度の評定(例; よその子どもが転んでひざにけがをしたとき, そばに行行ってその子どもを助けること, だれかおとなを呼ぶことなど, それぞれをどの程度望ましいと思うか。44項目), c) 教育観(例; 自分の子どもがこっそりつまみ食いをしたのをみつけたときの親の対応の仕方を数項目あげ, それぞれについてどの程度正しいと思うかを問うもの。15項目), d) 育児観(発達の規定要因として13項目をあげ, それぞれの重要性を問うたもの)。このほかに母親の就労の有無, 学歴なども尋ねた。質問項目の作成にあたっては日本語の文章とドイツ語の文章がなるべく同じになるように注意したが, これは非常に難しい問題で不十分な点が残った。被験者は日本は約500人の母親の協力が得られたが, ドイツ側は約50例しか得られていない。いずれも中流程度の生活水準をもつ家庭の母親である。

次に紙面の都合で上記の育児観に関する結果だけを示す。各項目について「非常に重要」と思う場合には

1, 「全く重要でない」と思う場合には4 というように4件法で評定を求めた。表1の数字はそれぞれの平均値で, 数字が少ないほど重要と考えていることになる。ドイツの例数が少ないが, この表を見る限り, 類似している項目もあるが, 両国でかなり相違している項目もある。たとえば日本の母親は子どもにきびしくすることをドイツの母親より重要と考えている。これに対して愛情をもっていることを子どもに示すことや母親が就労しないで教育に専念することは西ドイツの母親のほうが重要視している。なぜそうなのかということの解明は, 多くの要因が考えられるので難しいが興味ある問題である。

このほかに男児と女児に対する発達期待にも両国間で差が認められた。

なお, 「よい子像」, 「悪い子像」についての研究も行っている。母親がどのような子どもをよい子, あるいは悪い子と考えているかの調査である。わが国では2つの幼稚園の母親770名の資料が得られているが, これに対応する西ドイツの資料はまだ得られていない。したがって今回は調査の仕方についてのみ記すことにする。

まず予備調査にて247名の母親から収集した自由記述に基づくよい子像, 悪い子像を整理して各18項目ずつにする。次に本調査ではよい子の行動特徴18項目の中から「とくに望ましい項目」を6つ, 「そうでなくてもかまわない項目」を6つ, また悪い子どもの行動特徴18項目の中から「とくに望ましくないもの」を6項目, 「大目にみてもよいもの」を6項目選択してもらった。そして子どもの性, 年齢, 出生順位との関連を検討し, また母親の教育歴, 子どもの学歴に対する期待との関係も検討している。

表1 子どもの発達を規定する要因としての重要さ

	日 本	ドイ ツ
1. どんな素質をもって生まれたか	2.23	2.06
2. どんな環境の影響のもとにあるか	1.60	1.37
3. どんな友だちをもっているか	2.09	1.94
4. どんな先生についているか	2.41	1.78
5. どんな学校にいてるか	2.09	1.94
6. 母親がどんな手本を子どもに示すか	1.42	1.53
7. 母親が子どもにきびしく振舞っていること	2.58	3.22
8. 母親が子どもを自由にさせていること	2.54	2.04
9. 母親が子どもを自立できるように しつけること	1.63	1.31
10. 子どもをあやまりから守ってやること	2.30	3.25
11. 母親がどんなにその子を愛しているかを その子にいつも示すこと	2.63	1.14
12. 他人に対して責任をとることを教えること	2.07	2.02
13. 母親が子どもの教育に専念し、 職業をもたないこと	3.23	2.23



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



この研究は西ドイツ Saarbrücken 大学 H-J, Ko-rnadt 教授, Aachen 工科大学 G. Trommsdorff 教授, Mannheim 大学 T, Herrmann 教授らと共同で計画されている一連の研究の一部である。目的とするところは日本と西ドイツの幼稚園児の母親について子どもの発達期待ならびに育児観にどのような相違点, 類似点が認められるかを今回は質問紙法によって調査することにある。